



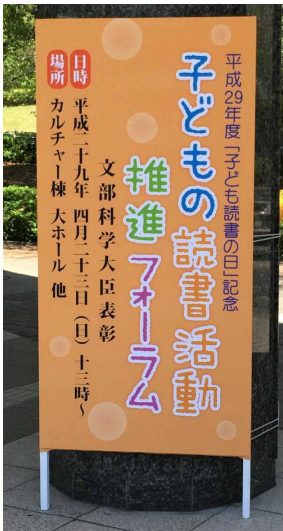
スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2017

No. 5 (平成29年5月17日発行)

「平成29年度 子どもの読書活動優秀実践校」

文部科学大臣表彰



2017年4月23日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターの大ホールで、文部科学省主催の「**子どもの読書活動推進フォーラム**」が開催されました。(4月23日は、「**子ども読書の日**」と法律で定められています。)このフォーラムの中で、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める優れた実践を行っている学校、図書館、団体、及び個人を毎年、表彰しています。

佐野高校・同附属中学校は、中高一貫教育校としては全国で唯一、「**平成29年度 子どもの読書活動優秀実践校**」の文部科学大臣表彰を受けました。(ちなみに、中学校は30校、高校は25校が受彰)。

フォーラムでは、1. 式典(文部科学大臣挨拶、代表者表彰)、2. 特別講演(「心を育てる読書」講師：紺野美沙子氏)、3. 事例発表と対談(テーマ「読書好きな子どもを育てるために」)、4. 表彰式(合計134校)が行われ、その様子はYouTubeでライブ配信されました。

〈本校が表彰された主な理由〉

1 中学校での取組

- (1) 必読図書 50 冊・推薦図書 100 冊を各教室の学級文庫に置いており、それらを中学3年間で読破する生徒が多数いる。
- (2) 毎朝15分間の朝読書、帰りの会の「本のプレゼン仏」の実践
- (3) 「シンカ読書ノート」(読書活動の記録)の活用
- (4) 読書週間での「ブックトーク」を各クラスで実施(高校でも実施)等

2 高校での取組

- (1) 図書の貸出冊数が本県で上位で、貸出冊数が増加している。
- (2) 佐野市と連携し、近くの小学校での「読み聞かせボランティア」に多くの生徒が参加。(中学生も参加)
- (3) 他校との交流による「ビブリオバトル」を実施。
- (4) SGH校として課題研究や各教科での調べ学習などで、学校図書館が有効に活用されている。
- (5) 図書委員の活躍(特設コーナーの設置、図書館便りの発行、おすすめの本の季節感のあるディスプレイ等)、多読賞の表彰(中高)等



紺野美沙子氏の講演



文部科学大臣表彰

<ブックトーク>



- *中学生：2016年11月16日（中2から中1への本の紹介）
高1：12月15日、高2：12月13日
（各クラスの図書委員がブックトークの方法を企画する）
- ブックトークを通して、自分の好きな本を紹介する楽しさと友人から本を紹介してもらう楽しさを味わうことができました。本を好きになる機会が得られる素晴らしい体験でした。
（当時高2、大豆生田駿くん）
- 皆が思い思いの本を持ち寄り、お薦めの本を紹介することによって、自分が知らなかった面白い本、感動できる本に出会うことができました。次回のブックトークが楽しみです。
（当時高1、高岩大介くん）

<読み聞かせボランティア>



- *2016年10月6日（木）、午前8時10分～25分
（佐野市立城北小学校 各学年1クラスずつ実施）
- 練習の時に習った、ゆっくり読むことや、ページをめくる時のコツなどを意識しました。教室に入るまではとても緊張しましたが、実際に読み始めると、小学生が反応してくれたり、真剣に聞いてくれました。終わった後の小学生の笑顔を見たら、とても嬉しくて、やりがいを感じました。
（当時中3、有澤音羽さん）
- 読み聞かせを通して、本には作者の思いが込められていることや、一文字一文字や挿絵の隅々までこだわって作られていることなどを学びました。（当時高1、池澤美月さん）

<読書の楽しさ～図書委員より>



- 私が図書委員会を毎年希望してきた理由は本が大好きだからです。図書委員として図書室や本の管理に携わることで毎日楽しく過ごしています。お薦めの本の紹介文を書くため、様々なジャンルの本を読むようになり、自分の読書活動も深まりました。毎年、多読賞をもらっています。図書室は静かで集中できる空間です。是非、図書室を利用し、読書を楽しんでください。
（高3、松原美月さん）
- 図書委員は本の貸し出しだけや整理だけでなく、新着図書の紹介のための掲示板づくりなど、図書館を使いやすくするための活動をしています。私にとって、読書の楽しみは、本を通して様々な登場人物に出会い、人生についての価値観の幅が広がることです。図書館はそんな本がたくさんあります。
（高3、稲川桃花さん）



下野新聞（4月28日付）より



近隣小学校で読み聞かせ活動を行った生徒たち

佐野高と 読書活動で文科大臣表彰 読み聞かせ活動など評価

【佐野】読書活動に力を入れていることが評価され、佐野高校と同付属中が23日、「平成29年度子ども読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた。

同校は付属中を創設した2008年以来、自分で選んだ本を互いに紹介する時間を設けたり、読んだ本の感想を書き込む「読書ノート制度」を設けたりしている。また、生徒の中から有志を募って近隣の小学校を訪問、読み聞かせのボランティア活動も展開中だ。

付属中の各教室には必読書50冊と推薦図書100冊の計150冊の本をそれぞれ2冊ずつ配り、生徒が本と接する環境づくりに力を入れている。図書館は約3万7千冊の本を所蔵し、2015年度の貸出数は県内60校でも上位だった。

同校は、国際的に活躍できる人材の育成を目指す「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」にも文科省から指定されており、SGHの研究活動の資料作りもネットと並行して本を重視している。赤羽浩校長（55）は「生徒たちはネットに頼るだけでなく、本が持つ情報の大切さを知ってほしい」と話していた。

（稲葉雄人）